

1. 本園の教育目標

教育目標 目指す幼児像	「あそぼう まなぼう いきいきと」 ・心身ともに健康で、明るく元気な子ども ・元気にあいさつする子ども ・人の話を聞き、自分の思いを話せる子ども ・豊かに表現できる子ども	・相手を思いやる子ども ・よく考える子ども ・あきらめないで挑戦する子ども
----------------	---	---

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 研究主題「子どもの育ちと学びをつなぐ」～気付き、考え、工夫することのできる子どもを育むための環境構成の在り方を探る～を掲げ、保育の充実を図ると同時に、子どもの育ちを10の姿に照らし合わせながらドキュメンテーションによって保護者や小学校へ発信する。
- 園児が、伸び伸びと自己発揮しながら遊べる環境づくりに努める。
- 幼児期の遊びを通しての学びがどのようなように小学校教育に繋がっているかを念頭に置き、幼児の資質・能力を高める。
- 日々の遊びを写真と言葉でまとめたドキュメンテーション作成を継続して行う。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1)教育目標・指導指針	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育目標「あそぼうまなぼういきいきと」について、4月初めに全職員で研修を行い、付箋を使ってまとめたものを模造紙に貼り、共通理解を図ることで同じ方向で園児を育てるチームができた。年度末には、今年度の評価と来年度の課題について話し合った。 ・園の教育目標や指導方針を達成するために、教師の保育力を高めるために、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を保育の中に常に意識するため、ドキュメンテーション作成を行った。毎週末に15分で継続して作成することが教師の力となり、また、保護者に発信することで保育への理解と安心感につながったと思う。
(2)保育の在り方・幼児への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「園児は楽しく幼稚園に通っている」について、A（十分達成）が65.5%、B（おおむね達成）が34.5%という回答をいただいた。アンケート「子ども一人一人の性格や特性に配慮して保育の指導を行っている」については、A（十分達成）が58.2%、B（おおむね達成）が40%、C（どちらかと言えば達成していない）が1.8%という回答をいただいた。すべての子どもと保護者の方が安心していただけるように、一人一人の課題や困り感に寄り添った保育をする努力をしていきたいと思う。 ・基本的な生活習慣面（挨拶、返事、片付け等）については、毎日の挨拶指導に加え、積極的な挨拶、園児による挨拶運動「おはようマン」も継続でき、進んで挨拶する子どもが増えてきた。
(3)保護者対応・地域との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人に愛情をもって接し、全職員でチームとなりながら保育や行事に取り組み保護者の方との対話を大切にしてきた。保護者の方が安心して子どもを園に通わしていただけるように、これからも丁寧な対応をしていきたい。 ・昨年度に引き続き地域のおひさまプロジェクトチームの協力をいただき、PTA役員と共に話し合い、行事に参画していただくなど自園の子どもを育てる連携したつながりをもつことができた。園はその皆様の温かい協力体制に感謝しながら、より一層子ども育てに励んでいきたい。
(4)環境整備・安全確保	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な子どもたちの命を園で預かる上で安全で安心した環境づくりの徹底をしてきた。特に今年度は、BCP訓練に参加し、危機意識を一層持ちながら避難訓練を行ってきた。地震の避難訓練では、1次避難の途中で余震が何度も起きることを想定し、園児と避難訓練を行った。また、昨年防災士を講師に招いて行った親子安全教室で学んだ、絵カードによる防災意識を高める取り組みを今年度も継続して行った。食物アレルギー研修や不審者対応訓練も職員皆で行うことで、職員一人一人が子どもの命を守るという気持ちが高まったと思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・今年度の教育目標を達成するため、園内の子どもの遊ぶ様子や保育の中の学びを外部に発信するために、ドキュメンテーションの作成を継続して行ってきた。今後も、地域・保護者・小学校へ、子どもたちのどんな力をつけたいという思いで教育しているかを発信していきたい。
- ・園内の教職員が一致団結してチームで保育にあたり、子どもたちの人権を尊重しながら愛情をもって接してきた。また、地域やPTAと協働した子育てができたと思う。子どもを取り巻く大人たちが手を取り合っている姿こそが、子どもたちの心と体の安心感や充足感につながり健やかな育成につながると思う。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
保育内容の充実	・季節や子どもの発達に即した環境構成の工夫 ・遊びの充実・遊びの時間の確保
教員の資質向上	・園内研修の充実（公開保育・ポートフォリオ） ・ドキュメンテーション作成を継続する
地域との連携	・園児たちが地域で、活躍する場を検討する（自治会館など）

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- ・いろいろな行事に参加して、子どもたちからエネルギーと「ほっ」とする気持ちをもらった。泣いている園児への先生の神対応に頼もしく思う。引き続きがんばってもほしい。
- ・幼稚園の行事等に参加する度に、園児たちの成長に驚いている。年少児は大勢の仲間と一緒に行動でき、年中児は仲間と協力することを学び、年長児は仲間を気づかい助け合うことができている過程を、先生たちが押し付けることなく見守ってくださる園は素晴らしいと思う。
- ・先生たちが協力して行事に取り組んでいると思う。子どもたちがとても生き生きとしている。
- ・先生方の子どもに向き合う姿を見ていつも安心させてもらっている。子どもたちのことを一番に考えて、先生たちも自分のことを大切にこれからもよろしくお願ひします。
- ・園づくり、保護者との信頼関係の構築をするためには、園長の異動が2年というのは短いと思う。
- ・地域とつながることが課題であるが、園児も地域に出向いて触れ合いや何か披露できる場があればよいと思う。

